

しんぱん
しどうようもんしゅう
新版 指導要文集

だいにしょう
じっせん
第二章 実践

ひとり
たいせつ
一人を大切に

じつぼうかい　ひとり　こころ　い　はちまんしせん　ほうもん　な
この十法界は一人の心より出でて、八万四千の法門と成
るなり。ひとり　てほん　いつさいしゅじょうびようどう
一人を手本として一切衆生平等なること、かく
のごとし。

さんぜしよぶつそうかんもんきようそうはいりゆう　そうかんもんしろう
(049 三世諸仏總勘文教相廃立 (總勘文抄))

ひとり　たいせつ　一人を大切に715ページー14行

じつぼうかい　じっかい　ひとり　せいめい　いちねん　で
この十方界 (十界) は、一人の生命 (一念) から出て、

はちまんよんせん　ほうもん　ひとり　せいめい　てほん
八万四千の法門となるのです。一人の生命を手本としてあらゆる

しゅじょう　おな　びようどう　しだい
衆生もまた同じく平等であることは、そのような次第です。

さどのくに

かみそうら

うえ

めんめん

もう

わずら

ひとり

漏

佐渡国は紙候わぬ上、面々に申せば煩いあり。一人もも

うら

るれば恨みありぬべし。

さどごしよ

(122 佐渡御書

ひとり

たいせつ

一人を大切に

1291

ページー12行)

あま 御 前

ごしよろう

おんこと

わ

み いっしん

うえ

思

そうら

尼ごぜんの御所の御事、我が身一身の上とおもい候え

ちゅうや

てん

もう

そうろう

ば、昼夜に天に申し候なり。

ときどのごへんじ

へいゆきがん

こと

148 富木殿御返事（平癒祈願の事）

ひとり

たいせつ

一人を大切に

1353

ページー2行

との おんこと

隙

ほけきよう

しやかぶつ

につてん

もう

殿の御事をば、ひまなく法華経・釈迦仏・日天に申すな

ゆえ

ほけきよう

いのち

つ

ひと

おも

り。その故は、法華経の命を継ぐ人なればと思うなり。

しじようきんごどのごへんじ せおうごしよ

(209 四条金吾殿御返事 (世雄御書))

ひとり たいせつ

一人を大切に 1590 ページ 14 行

しじようきんご

ほけきよう

しやかぶつ

につてんし

あなた (四条金吾) のことは、たえず法華経、釈迦仏、日天子に

いの

ほけきよう

いのち

つ

ひと

おも

祈っています。それは、あなたが法華経の命を継ぐ人だと思うから

です。

きようおうごぜん

経王御前のこと、二六時中に日月天に祈り申し候。

にろくじちゆう

にちがつてん

いの

もう

そうろう

きようおうどのごへんじ

(225 経王殿御返事

ひとり

たいせつ

一人を大切に

1632

ページー13行)

しゆつたい そうら

おん 渡

いかなることとも出来し候わば、これへ御わたりあるべ

みたてまつ

さんちゆう

とも

飢

じ

そうら

し。見奉らん。山中にて共にうえ死にし候わん。

おとごぜんごしようそく

(242 乙御前御消息

ひとり

たいせつ

一人を大切に

1692

ページー6行)

たと

ひとり

しちしあ

しちし

なか

いっしやまい

「譬えば、

一人にして七子有り。

この七子の中に一子病

あ

ふぼ

こころびようどう

に遇えり。

父母の心平等ならざるにはあらざれども、し

びようし

こころすなわ

おお

かも病子において心則ちひとえに多きがごとし」

みよういちあまごぜんごしようにそく

ふゆ

かなら

はる

こと

(244

妙一尼御前御消息 (冬は必ず春となるの事)

ひとり

たいせつ

一人を大切に

1694

ページー13行)